



## お知らせ

### ①雑誌付録抽選会

2/7(水)13:00~

(当日校内放送をかけます)

音楽雑誌のポスター、アニメ雑誌のクリアファイル  
カレンダー、アーティストの小冊子など

### ②高3生へ

2/23(金)最終返却日

図書・雑誌・赤本など

図書館で借りた資料は、全てお戻しください。

卒業式を過ぎますと、

※郵送や宅急便で返却をお願いすることになります。



## 時事問題

### 寒すぎる!

伝説の「あの日」の天気は  
こうして生まれた

記録的な大雪、マイナスのつい最低気温

今年の冬は寒すぎます。

過去には、どんな驚くべき天気があったのでしょうか?

#### [参考図書]

- 『こんなに凄かった!伝説の「あの日」の天気』/金子大輔/自由国民社
- 『天気と気象についてさかっていること知らないこと』/筆保弘徳ほか/ペレ出版
- 『気候で読み解く日本の歴史 異常気象との攻防1400年』/田家康/日本経済新聞社
- 『気象文明史 世界を変えた8万年の攻防』/田家康/日本経済新聞社
- 『地球の気候はどう決まるか?』/住明正/岩波書店
- 『雪の結晶 小さな神秘の世界』/ケン・リブレクト/河出書房新社

### 2月→バレンタイン→恋愛小説

と、ベタな企画です

しかし、年間ではこの企画のヒット率高いんです  
今年も期待してくれていますよね?

新しめの恋愛小説から厳選しました!

#### 妄想系女子の苦悩 こじらせぶりに共感できる?

「勝手にふるえてろ」綿谷りさ/文春文庫



経理課 OL ヨシカは想像上の恋愛しか経験したことがない。中学から片思いの彼が忘れられなかったが、社内にタイプじゃないが熱烈に口説いてくれる男性が現れた!さあ、どちらを取るんだ?オタクで、自分の世界しか見えてない不器用な彼女なので、妄想が暴走しはじめると読んでる方までヒヤヒヤするが、頭で考えすぎて恋愛が進まないのは、一度は女子が通ってくるイニシエーションじゃないかと、ヨシカを応援したくなった。

#### 二重に三重に 仕込まれた仕掛けにご注意を

「ずっとあなたが好きでした」歌野晶午/文春文庫



甘いだけの恋愛小説はいらないと考えたなら、この恋の力を借りたサプライズ・ミステリーはいかが?10代から大人の恋愛まで年代も地域もさまざまなところで繰り広げられる13の恋の話。前の話と関連を感じたり、仕掛けを期待させる小説です。歌野晶午といえば「桜葉の季節に君を想うということ」の著者、「大どんでん返し」の名手。最初の話から順番に読んでくださいね。連作短編集ですが、ミステリー寄りの趣向で、一話ごとひねりが効いているので、男性にもおすすめしたい。最後の驚きは、今回もお見事!

#### 自分大好きイケメン男子の顔末

「伊藤くん A to E」柚木麻子/幻冬舎文庫



資産家の子息でイケメン、だが極度の自己チュー。人は平気で傷つけるのに自分が傷つくのはみっともない程うろたえる、というのが27歳伊藤誠二郎。彼に騙されフラれた女性5人の目を通して、20代女性の恋心、かけひき、女同士の感情をスケッチしている。どんだけモテるんだよ!と突っ込んでいたら、

そのからくりやプライドの裏に潜んでいた彼の闇が見えてきて、滑稽にも可哀想にも思えるのだが、最後には成敗されることを期待しながら読んでいた。惚れたら負け?恋に恋しては見誤る。(以上 千葉)

#### タイトルが、すべてを語る

「6番線に春は来る。そして今日、君はいなくなる。」

大澤めぐみ/角川スニーカー文庫

イマドキの女子高生に憧れていた田舎育ちの香衣。香衣のことが好きで同じ高校に進学したがうまく行かない隆生。家庭事情を隠して香衣の親友を演じるセリカ。学内では珍しい不良タイプの龍輝が優等生の香衣に一目惚れ。4人の恋の行方は!?彼女たちは、三年間、どこまでも未熟で不器用な生き方しかできない日々。それでも一生懸命悩み、葛藤して春を迎え新しい世界へと旅立つ。そんな彼女たちがいじらしくてとっても愛おしい。

#### 余命10年と言われたら何をしますか?

「余命10年」小坂流加/文芸文庫

20歳、茉莉は難病を発症し余命10年と宣告される。恋など望んではいけなかったのに運命は残酷。「わたしは死ぬ。それだけは決まっているんだから安心して。」「命が恋しくて、時間がいとおしくてたまらない。」

「愛してるって、むせ返るほど苦しい。」心の内を押し隠し一人悶え苦しむ茉莉。著者、小坂流加氏自身が作品の出版を見届けずに早逝。茉莉の心の叫びは著者の心の叫びなのか。涙なしでは最後まで読めない。

#### 「やさしい死神」の正体を読み解いてみて!

「君の嘘と、やさしい死神」青谷真未/ポプラ文庫ピュアフル

人から頼まれると断れず、身動き取れなくなる性格の百瀬太郎。太郎を引っぱり巻き込んで行く美少女、美園玲。彼らは、文化祭にどうしても落語を演じたい玲の準備をきっかけに心の距離が縮まってゆく。玲には誰にも言いたくない秘密があった。作中出てくる落語の

演目『死神』が有効的に使われ、お話の終わりに向かって涙を誘う。玲によって遅くなっていく太郎と、運命に抗いたい一生懸命な玲。若くてピュアな二人は結ばれるのか!? (以上 田中)

#### 恋の成就是神様におまかせあれ?!

「パーマネント神喜劇」万城目学/新潮社



まず、この作品は王道の恋愛小説ではありません。でもとっても人間味あふれる縁結びの神様(左の表紙のお方!)が願を叶えてくれるお話です。ハラハラドキドキはないけれど、笑いあり涙あり心温まる展開に思わずホッコリ。恋愛成就に神頼みをしたことはなかったけれど、こんな風に願いを叶えてくれるのならば神頼みもありか?! かのこちゃんや、バベル丸もちらりと出てきて万城目ファンなら思わずニヤリとしてしまいます。

#### あの日に戻りたいって思ったことがありますか?

「この嘘がばれないうちに」川口俊和/サンマーク出版

とある喫茶店の、とある座席には望んだとおりの時間に戻れるという不思議な都市伝説があった…。本屋大賞にノミネートされた「コーヒーが冷めないうちに」の続編。過去に戻りたいかと思わない性格なのでこの手のお話は…と思っていたのですが、「愛する人を想う気持ちが生み出した不器用な嘘」には共感するところも多く、優しさのある作品だなあというのが率直な感想。みなさんにも是非感想を聞いてみたい。

#### これが恋愛小説?思わず握りが食べたくなる!

「その手をにぎりたい」柚木麻子/小学館文庫



バブル期に銀座の超高級鮎店の常連になるために、がむしゃらに働いたOLのお話。彼女が何故そんなに頑張ったかという、店の職人を好きになってしまったから…。その鮎店は職人から直に鮎を受け取る珍しいスタイル。一目惚れならぬ一握り惚れ。ああ、それでその

タイトルなのか!上手い!そして食べ物の描写も上手い!彼女の恋愛観は共感できないかもしれませんが、バブル期を知らない読者には「こんな時代があったんだ」と新鮮な発見があると思います。(以上 梅谷)

